# 深淵なる森のなかのラグジュアリーホテル

MAGACHABARU OKINAWA ≫35ページ

1：ゲスト専用の共有スペースでは、ティーリーフが生い茂る森の緑にいやされる。心ゆくまで自然と共鳴する時間もぜいたく。 2：コンクリート打ち放しの建物とプール、やんばるの深緑が絶妙に融合。 3：山の傾斜に沿って建てられたヴィラは11棟すべてが、ホテルとしてはユニークなスキップフロア形式の立体構造でデザインされている。

那覇から車で北上すること約2時間半。今回の旅の終着点となる本島北部、今帰仁村に到達した。今帰仁村は琉球王朝の起源ともいわれる北山王国の首都として栄華を極めた地で、村の北東に位置する古宇利島は古くから「神の島」と称される。600年あまりもの悠久の時に想いを馳せる。歴史好きならずとも、ロマンを感じずにはいられない土地でもある。

その今帰仁村の魅力はなんといっても、コバルトブルーの海と共存する亜熱帯の豊かな森。「やんばる」とよばれるこの地で選んだ宿は、手つかずの自然やスピリチュアルなスポットがまだ多く眠る森のなかにたたずむラグジュアリーホテル「MAGACHABARU OKINAWA」だ。

「どこにも似ない、ただひとつのスタイル」をコンセプトに掲げる同ホテルの特徴は、有機的な森の緑とコントラストを描くよう、あえて無機質さにこだわったコンクリート打ち放しの建物。ヴィラというよりもモダンな邸宅風にデザインされた瀟洒な客室は全11棟。1ベッドルームは約135平方メートル、2ベッドルームは約175平方メートルの広さを誇り、全棟にリビング、カウンター、ベッドルーム、バス&シャワールームと屋外のプライベートプール&ガゼボ（東屋）が配される。大きな額縁を思わせるリビングの窓からは豊かなやんばるの緑が独り占めでき、思わず「こんなぜいたくがあったのか」と胸が熱くなるほど、新しいラグジュアリーの形を体感させてくれる。

食事はすべて完全予約制。送迎付きの電動カートで移動できるメイン棟のダイニングでは、地元食材にこだわった和洋日替わりの朝食が供されるほか、夕食もゲストの希望に可能な限り寄り添いながら、シェフが提案する美食の数々が8皿以上のコースで登場する。

緑に包み込まれるような空間で、晴れた日には木漏れ日を感じ、雨の日には水音に心耳を傾ける。深部に眠る疲れは、タイ古式マッサージのインルームエステでたっぷりほぐし、そのまま体をベッドに預けて鳥のさえずりとともに目覚めるのもいい。ここにはそんなくつろぎに満ちた〝どこにも似ない、ただひとつの時間〟が流れている。

1：プールサイドにしつらえられたガゼボでは、もとぶ牛など県産食材のバーベキューも楽しめる（要予約）。 2：メインダイニングで供されるディナーコースより、アカミーバイのカルパッチョ。赤ダイコンとズッキーニ、ディルを重ねて。エディブルフラワーを散らして庭園風に仕上げている。 3：地元産の食材をふんだんに使って提供する和朝食。朝食は洋食と和食からリクエスト可能。 4：ディナーメニューより、メイン料理はもとぶ牛フィレ肉のソテー。地元産のニンジンとジャガイモのガルニを添えて。